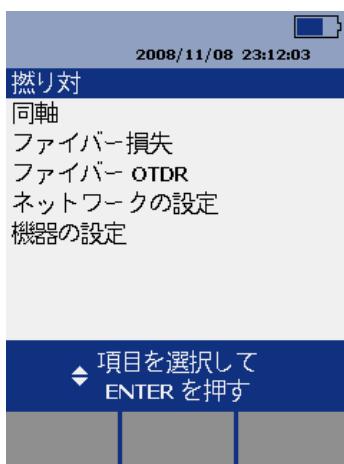


## DTX シリーズにおけるクロスケーブル測定の設定方法

TIA568B や ISO11801 のような配線規格においてはストレートで結線をするを前提としていますので、通常の設定でクロスケーブルを測定すると、ワイヤーマップで不合格となってしまいます。これを避けるために“カスタム”設定を作成することでクロスケーブルにおいても、他の項目がすべて合格であれば合格判定を表示させることが可能です。

操作は2つの段階に大別されます。以下に設定手順を示します(テスターの画面は、ファームウェア・アップデート後の画面を基準とします)。



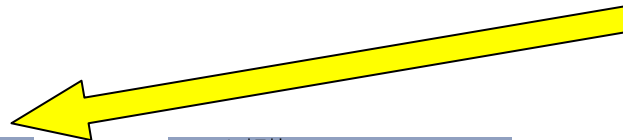
1. ロータリースイッチを“SETUP”に回し“燃り対”を選択します。



2. テスト規格を選択し“ENTER”を押します。



3. 続いて“次の画面(F1キー)”を押します。



4. 上下キーを用いて“カスタム”を選択します。



5. “作成(F1キー)”を押し、カスタム規格の作成を開始します。今回の例ではCat5eのクロス設定を行うものとします。



6. まず作成するカスタム規格に対する名前を決めます。

名前

Custom Limit Name

A B C D E F G H I J K L M  
N O P Q R S T U V W X Y Z  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0  
/ # \* - . , : [ ] スペース  
Ç Ñ Ò Ó Ô Õ Ö Ù Ú Û Ü  
Í Î Ï Ï Ò Ó Ô Ö Ù Ú Û Ü

文字を選択して  
ENTERを押す

終了したら SAVE を押す

カーソル移動    移動 Q    文字の削除

7. デフォルトでは、上のような名前が入っていますが、分かりやすい名前を入れた方が良いでしょう。

名前

CAT5E CROSS

A B C D E F G H I J K L M  
N O P Q R S T U V W X Y Z  
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0  
/ # \* - . , : [ ] スペース  
Ç Ñ Ò Ó Ô Õ Ö Ù Ú Û Ü  
Í Î Ï Ï Ò Ó Ô Ö Ù Ú Û Ü

文字を選択して  
ENTERを押す

終了したら SAVE を押す

カーソル移動    移動 Q    文字の削除

8. ここでは、Cat5e のクロスケーブルを測定するものと仮定し上記のような名前を付けます。

テスト規格  
カスタム

\* CAT5E CROSS \*

項目を選択して  
ENTERを押す

作成    削除    編集

9. "SAVE" キーを押すと確定して、上記のような画面が表示されます。

カスタム

1 2 3 4

名前  
CAT5E CROSS

デフォルト値を使用  
TIA Cat 5e Perm. Link

最大長  
90.0 m

ワイヤーマップ  
有効

終了したら SAVE を押す

項目を選択して  
ENTERを押す

10. 続いて測定対象となる配線・ケーブルの 카테고리を選択します。

カスタム

1 2

名前  
CAT5E CROSS

デフォルト値を使用  
TIA Patch Cord Cat5e 1.0m

ワイヤーマップ  
有効

抵抗値  
有効

終了したら SAVE を押す

項目を選択して  
ENTERを押す

10-1. パッチコードアダプターを用いたパッチコードテストの場合でも、同様の設定が行えます。

デフォルト値を使用

TIA Cat 6 Perm. Link

TIA Cat 3 Channel

TIA Cat 3 Perm. Link

TIA Cat 5 Ch (TSB-95)

TIA Cat 5e Channel

TIA Cat 6 Channel

TIA Cat 6A Channel

TIA TSB155 Ch

TIA Cat 5e Perm. Link

TIA Cat 6 Perm. Link

項目を選択して  
ENTERを押す

次の画面    ページアップ    ページダウン

11. 規格の選択方法は通常の配線試験と同じです。

カスタム

1 2 3 4

名前  
CAT5E CROSS

デフォルト値を使用  
TIA Cat 5e Channel

最大長  
100.0 m

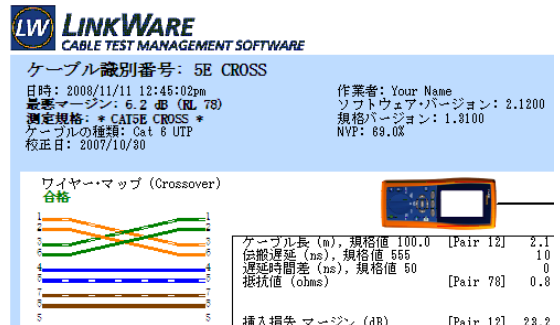
ワイヤーマップ  
有効

終了したら SAVE を押す

項目を選択して  
ENTERを押す

12. 設定完了です。

以上で設定の段階は完了です。"EXIT" キーを押して最初の画面に戻ります。  
ワンポイント: 設定時に作成した "名前" は、テストレポートの "測定規格" の欄に表示されます。従って、デフォルトのまま変更しないと "Custom Limit Name" と表示されてしまいますので、例えば CAT6 CROSS などの分かりやすい名前を付けると良いでしょう。



## 作成したカスタム設定を用いた2ペアクロスの測定例



1. ロータリースイッチを SETUP に回しテスト規格の中から“カスタム”を選択します。



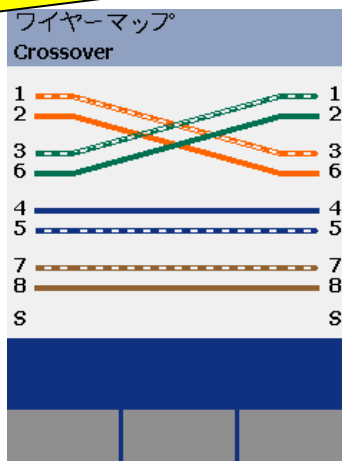
2. 前に作成した“CAT5E CROSS”が表示されていますので、これを選択します。



3. 続いて“アウトレットの構成”を選択します。



4. 一覧から必要とする結線を選択します。表示の意味が分からない場合には“サンプル(F1キー)”を押します。



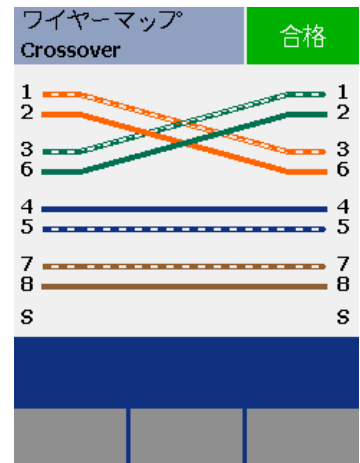
4-1. “Crossover”を選んでサンプル表示をさせた例です。



5. 以上で設定は全て終了です。



6. ロータリースイッチを“AUTO TEST”に回します。



ワイヤーマップの結果がクロスでも合格となります。